



駐屯地司令新年挨拶

第4施設団長兼ねて
大久保駐屯地司令
陸将補 坂元 秀明

新年明けましておめでとうございます。協会の皆様におかれましては、心穏やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃より大久保駐屯地へのご理解、自衛隊に対する物心両面のご支援、隊員への温かい激励、防衛基盤の醸成にご尽力頂く等、自衛隊の活動に格別の御厚情を賜り、心より御礼申し上げます。

また、世界的な大流行となった新型コロナウイルス感染症は、我が国を含む国際社会の安全保障上、重大な脅威であり我々も他者との接触を軽減する等、感染症の拡大を防止する取り組みを強力に推進してまいりました。そのため会員皆様には記念行事「夏まつり中止などにより懇親の機会を控えていたこと」をお詫び申し上げます。一日でも早く収束を迎え皆様にお目にかかれる日を心から願っております。

今年も、昨年と同様に我が国を取り巻く情勢は、より不安定要素が顕在化し、一層厳しさが増すとともに、国内では激甚化災害が発生する可能性が予想される等、我々は新型コロナウイルス感染症への対策を継続しつつ、国内外情勢に適切に対応することが求められています。このような情勢の中、大久保駐屯地は創立64周年、第4施設団は創設60周年の節目を迎えます。長きに亘り皆様から頂いたご支援、ご協力の節目を迎えます。長きに亘り皆様から頂いたご支援、ご協力の節目を迎えます。長きに亘り皆様から頂いたご支援、ご協力の節目を迎えます。

4 協力団体会長新年挨拶



大久保自衛隊協力会



また、業務や行事等においても制限が加えられる等、色々な面に支障をきたすと予測されます。幸いにも、昨年は災害派遣や海外派遣業務と言った面においては少なく救いであつたかと思われま。

どうか、本年も皆様方におかれましては、今までと同様に駐屯地の活動にご理解とご支援いただきます様お願い致しますとともに、協会の運営に對しましてご協力をお願いします。そして皆様方にとって良い1年となることを願ひまして新年の挨拶とさせていただきます。

の皆様は、日夜激しい訓練をされていることと存じ、改めて敬意を表する次第であります。本年が、新型コロナウイルスも収まり、普通の生活が出来ることを願うとともに、隊員皆様のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

発行：大久保自衛隊協力会
陽融会
大久保駐屯地桃友会
45会
編集：駐屯地司令業務室
印刷：進見堂印刷
駐屯地司令要望事項
即応と信頼
紙面紹介

- 1面
・駐屯地司令新年挨拶
・4協力団体会長新年挨拶
- 2面
・部隊長新年挨拶及び各部隊訓練等記事
- 3面
・部隊長新年挨拶及び各部隊訓練記事
- 4面
・部隊長隨筆
・最先任の一言
・災害派遣
・駐屯地研修
・奈良県林野火災消防訓練
・奈良県自衛隊フェア2020
・編集後記



新年あけましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染症禍において、皆様と共に新年を迎えられたことに、まずは感謝申し上げます。

早く安心安全な社会に戻ることをお祈りしますとともに、新たな生活様式の中で、大久保駐屯地の応援を行ってまいりたいと考えております。駐屯地の皆さん、私共は縁の下から応援してまいりますので、丑年にあやかり、一歩一歩大地を踏みしめて、隊務に、健康に、ご家族共々、着実に前進していただきますようお祈り申し上げます。

力の外交を継続する中国、弾道弾で威圧する北朝鮮、国と国の約束を反故にする韓国、北方領土開発を強めるロシア等、何時不測の事態が発生しても不思議ではありません。周辺国の情勢が鑑みれば、国の安全と国民の生命・財産を守って自衛隊の立ち位置を明確にする必要があると思われたいなりません。今年も部隊の任務達成を第一に訓練に励み、常に即応態勢を維持される大久保駐屯地隊員皆様にとりまして、幸多き年となりますようご祈念いたします。



新年あけましておめでとうございます。旧年中は、新型コロナウイルスの影響で1年間普通の生活が出来ず、隊員の皆様も大変不自由な生活を強いられた事と思ひます。日常生活、また訓練においても今までは全く異なる制限された中での活動であったことと思ひます。そうした状況の中でも、我が国の安全・安心のために隊員の皆様は、日夜激しい訓練をされていることと存じ、改めて敬意を表する次第であります。

本年が、新型コロナウイルスも収まり、普通の生活が出来ることを願うとともに、隊員皆様のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

部隊長新年挨拶及び各部隊訓練等記事



坂本 1 佐

新年おめでとうございませう。発展の前触れと言われる丑年を第7施設群一丸となり、一歩一歩着実に成長できるような精進していきます。



ライナープレート構築中



菅原 2 佐

旧年は、多大なるご支援を賜り心より御礼申し上げます。皆様にご信頼され、愛される部隊であり続けられるよう、隊員一同頑張ります。皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



特大型ダンプによる走行散布



小型ショベルドーザを使用した側溝整備



グレーダによる幹線道路整備



橋梁架設



矢板設置中の隊員

第7施設群

群は、令和2年11月12日(木)から19日(木)までの間、大久保駐屯地、富士駐屯地、日本原演習場及び青野ヶ原演習場において団長訓練検閲を受閲しました。状況は10月から逐次エスカレートし、第7施設群は、11月12日(木)、1900、第3種非常勤務態勢に移行して、本格的な作戦準備に着手しました。応急出動準備を実施しつつ、第382施設中隊(富山)を大久保駐屯地に前進させ、第7施設群として隊容検査を実施し、作戦準備に万全を期しました。応急出動準備完了後、11月14日(土)、企図を秘匿するため夜間に出発して、日本原演習場、青野ヶ原演習場それぞれに基礎配置へ暗夜を活用し展開するとともに、必要に応じて部隊を転用しました。作戦地域においては、潜伏した敵の活動に悩まされながらも、前方兵站基地等における膨大な施設支援要に対して、被支援部隊のニーズに合致した施設支援を不眠不休で答え、方面隊の作戦に貢献しました。隊長以下一隊員に至るまで、本検閲で得た貴重な経験を糧として、厳しい練成訓練に励み、更に飛躍していく所存です。

第3施設大隊

大隊は、令和2年11月5日(木)から14日(土)までの間、方面隊統制あいば野演習場秋季整備に参加しました。演習場内の道路整備や、各整備部隊に対する機械支援を実施しました。本整備期間中は、連日の降雨により作業は夜間にもおよびました。また、寒暖の差も激しく、健康管理に留意しながらの作業となりましたが、第3師団の施設力として与えられた任務を期間内に完遂することが出来ました。整備には、9月末に配置された新配置隊員21名が参加し、先輩隊員からの指導を受け、熱心に作業に取り組み、任務を完遂しました。新配置隊員からは、「与えられた任務を着実にこなし、これからはも部隊の役に立ちたい。」という力強い言葉をはじめ、「無線機等の取り扱いなどの専門分野について、通信小隊の隊員として、練度向上を図っていききたい。」「演習場整備を通じて、得た経験をしっかりと今後の勤務に活かしたい。」などの前向きな感想が多く聞かれ、頼もしく感じました。



富岡 3 佐

被支援部隊の任務完遂への寄与を念頭に部隊の意識改革を図っていきます。「少しでも前に、前のめりで」を徹底して邁進します。



有線構成教育



川田 2 佐

施設器材隊は、国土防衛のため日々訓練に汗を流し、練度の維持・向上を図るとともに、地域の皆様にご安心して頂けるような規律厳正・精強な部隊であり続けます。



92式浮橋へん水見学



射場整備



油圧ショベルによる法面形成

第104施設直接支援大隊

大隊は、令和2年10月26日(月)から28日(水)までの間、昼夜間の寒暖の差の激しい長池演習場において第104施設直接支援大隊整備隊訓練を実施しました。今訓練は、整備隊長(河本2尉)が8月に交代して初めての訓練であり、整備隊の現時点での訓練練度を確認していただく場であったため、各小隊等は、今までの練成成果を発揮するべく周到な準備を行い訓練に取り組みました。特に、今年度実施した訓練の成果を反映するとともに、通信構成の段階的な区分訓練を実施して整備隊の練度の底上げを図りました。訓練間、各隊員一人ひとりが真剣に訓練に臨み、練成成果を十分に発揮して、異状なく訓練を終了しました。今回の野外訓練で明確になった問題点を改善するため、整備隊として12月中に再度訓練を実施して、更なる練度向上を図り、整備隊員一同前進していきます。

第102施設器材隊

器材隊は、令和2年10月23日(金)、木津川市職員(24名)に対して隊内生活体験を実施しました。生活体験では、敬礼及び集団行動を行うための基本教練、架橋中隊が装備する92式浮橋の展示を行い、自衛隊に対する理解と信頼を深めていただきました。また、令和2年11月6日(金)から13日(金)までの間、令和2年度後期長池演習場整備を実施しました。整備部隊は、第102施設器材隊の他、大久保駐屯地所在部隊の一部が参加し、総勢116名で編成されました。本整備において、架橋中隊は前回に引き続き、演習場内を流れる長谷川に対する砂防堤の建設工事を実施し、令和元年度より3期にわたる整備を完成させました。また、特殊器材中隊は幹線道路の補修工事を実施し、演習場内の道路の機能維持を図りました。その他、射場の維持管理整備等も実施しました。晩秋の寒さの中に残暑を感じる約8日間に及び整備期間でしたが、1件の事故もなく任務を完遂しました。



重レッカによる特大型ダンプの回収



化学防護衣を着用し除染作業開始

第307ダンプ車両中隊



応急道路構築のための測量作業

要望事項の「今を大切に」を
実践し、貴重な経験を積み重ね、
中隊と隊員個人が光り輝く「年
となることを祈念します。
令和3年、どうぞ第307
ダンプ車両中隊を宜しくお願
いします。



川上 3 佐

中隊は、令和2年10月25日(日)か
ら27日(火)までの3夜4日におたり
第1小隊に対し「全般支援に任ずる施
設小隊の行動」について、長池演習場
において今年度最後の小隊訓練検閲を
実施しました。
検閲官(川上3佐)は、「基本基礎
の徹底」「安全管理」「健康管理」の
3点を要望しました。
第1小隊は小隊長(遠竹2尉)を核
心として、主としてMSR(補給幹線
道路)維持補修のための応急道路の構
築任務を所命した時期までに完成させ
任務を完了しました。
また、持ち前の識能と積極性で分隊
を指揮した第1分隊長(本郷2曹)と
旺盛な責任感をもち分隊を指揮した
第2分隊長(太田3曹)の両者は、
「零細時間を上手く活用し、練成を重
ねた結果が生まれ、よく頑張ってい
ました。」と述べました。
9月末に中隊配属となった新配置隊
員も、配置後間もなく小隊検閲へ参加
するの藤本1士(奈良県)は、優秀第2
分隊の藤本1士(奈良県)は、優秀第2
分隊に貢献した活躍を見せ、「さらに中
隊に貢献したい。」と頼もしい
意気込みを述べました。
中隊は、今検閲で得た教訓を共有し、
厳しい環境下でも任務完遂できる練度
を獲得するよう、より一層精進します。

第4施設団本部付隊



命令下達(有線構成準備)

「任置き、道連れ」地域から
信頼される団本部付隊を目指し、
一歩ずつ部隊のため、隊員のため
に精進していきます。



炭谷 1 尉

団本部付隊は、令和2年10月7日
(水)から9日(金)までの間、長池演
習場において、通信班に対し令和2年
度通信班訓練検閲を実施しました。
検閲官(炭谷1尉)は、検閲の開始
にあたり、「不断の通信組織構成の追
求」「部隊の基本的行動、隊員の基礎
動作の確行」「各種管理の万全」の3
点を要望しました。2夜3日におたり
状況の中、敵の襲撃、航空攻撃、特殊
武器攻撃等の脅威に対処しつつ、通信
班は企図の秘匿を重視した通信所・無
線網の開設及び各種通信組織の維持・
運営を実施しました。
特に、9月末に部隊配属された富田
1士(京都市)、北村2士(城陽市)、
梶田2士(奈良県)、藤原2士(愛知
県)の4名は、終始雨の降りしきる中
先任陸曹等の指導の下、着意事項を自
ら考えて積極的に指揮俣下に入り、最後
まで全力で取り組む姿勢は非常に頼も
しいものでした。本検閲は、台風接近
に伴い終始降雨がある中でありました
が、一件の事故もなく所望の任務を完
遂し幕を閉じました。
今後更なる練成訓練を重ね、第4
施設団本部付隊隊員個々の能力をより
一層高められるように精進してまいり
ます。

大久保駐屯地業務隊



整備前

整備後

部隊、隊員、隊員家族の生
活・勤務・訓練環境の維持向上
及び、いざという時の警石の支
援態勢の確立を目標に、今年も
業務隊一丸となって頑張ります。



永井 1 佐

業務隊は、令和2年11月30日
(月)から12月8日(火)の間、
生活・勤務環境の改善を目的に
駐屯地所在部隊の支援を受け、
業務隊が担任する駐屯地南側
外柵沿いの立木伐採整備を実施
しました。
立木の伐採については、委託
業者と連携して実施し、伐採し
た立木の積載・搬出は隊員が実
施しました。
管理科においては、日頃から
「課業中実施する全ての整備等
を絶好の練度向上の場」と意識
して実施していますが、今回も
本整備の場を良く訓練の場と捉
えて実施しました。
今後は、「適時適切な命令・
指示」「工程管理」「安全管理」
を重視するとともに、委託業者
から難易度の高い条件における
の伐採の知識・技能等を学び識能
の向上を図ることができました。
また、本整備により駐屯地南
側(警衛所側)外柵沿いの視界
の確保等により良好な状態に改
善することができました。
引き続き駐屯地の生活・勤務
環境整備を推進し、部隊隊員の
向上に努めたいと考えています。

第3後方支援連隊 第1整備大隊施設整備



チェーンソーを整備する隊員

野整備部隊として、技術の練
磨に努め高い技術をもって支援
できるように努力していく所存
です。
本年もよろしくお願いたし
ます。



石垣 2 尉

施設整備隊は、令和2年11月
6日(金)から14日(土)まで
の間、あひば野演習場、青野ヶ
原演習場にそれぞれ分派して演
習場整備支援に参加しました。
演習場整備の連隊長要望事
項である「能力向上の創意事
安全管理」を重視し演習場整備
の妨げを減らすこと、事故なく安
全に任務を完遂することが出来
ました。
あひば野演習場整備において
は、小型ショベルドーザー、掩体
掘削機、チェーンソーなど15件
の故障整備を実施し、青野ヶ原
演習場整備においては、草刈り
機など30件の故障整備を実施し
演習場整備の任務達成に大きく
貢献しました。
また、令和2年11月20日(金)
若年隊員及び新配置隊員に対し
て補給用天幕の構築、大型トラ
ックに対しタイヤチェーンの装
着及び天幕・車両への偽装網の装
展を駐屯地内で実施しました。
特に新配置隊員にとっては初
の訓練であり先任隊員の指導
の下、熱心に訓練に取り組ん
でいました。
今後も若さ溢れる隊員達を育
ていきます。

第318基地通信中隊大久保派遣隊



基本基礎動作(銃点検)

新年あけましておめでとうご
ざいます。
本年は丑年であり、丑の字に
は「結ぶ」や「つかむ」などの
意味を込めたと考えられている
ようであります。隊員皆様が更
に信頼で結ばれる各自の目標を
掲げることができ、様々な様
々な年の挨拶とさせていただきます。



澤田 2 尉

派遣隊は、令和2年11月15日(日)か
ら19日(木)までの間、今年度最大の目
標である方面総監直轄部隊訓練検閲を受
閲しました。
年度当初から積み上げてきた訓練成果
を遺憾なく発揮し、中部方面通信群は、
「優良」の評価を得ることが出来ました。
また、派遣隊は、2月に実施される中
部方面通信群持続走大会に参加し、上位
入賞を目指して体力練成に励んでいます。
そのために、それぞれの隊員は、段階的
に練成し記録を取り、成果を積み上げて
いきます。11月には、6kmの記録を測り
ました。コロナ禍において、駅伝方式で
の大会は中止となりましたが、各人が中
隊への帰属意識を醸成し、強固な団結を
維持するため、全員が12kmを走り切れる
ように更なる高みに向かい練成を続けて
いきます。

第397会計隊



会計実務実習の様子

会計の基本・基礎を徹底し、
会計隊全隊員一丸となつてあら
ゆる困難を克服し、信頼される
会計隊を目指して、駐屯地所在
部隊の任務達成のため、より一
層精進します。



青木 3 佐

会計隊は、令和2年11月2日(月)か
ら3日(火)までの間、令和2年度方面
会計隊長訓練検閲を受閲しました。
11月2日(月)の午後から夕方にか
けて、個人の会計実務能力を競う競技会が
実施され、表彰方法は個人の得点を部隊
ごとに合算する部隊表彰と、個人ごとの
得点による個人表彰が設けられました。
結果は、部隊表彰の部において第3位、
また、個人表彰の部では、井上曹長と市
川曹長が陸曹の部で同点第3位となりま
した。
競技会が終了し、その夜から翌日の朝
にかけて、会計実務実習という形で訓
練検閲が実施されました。付与された状
況を第1状況から順に演習会計隊で会計
事務処理をしていくという方法です。
それが翌朝の8時という方法です。
会計隊は、常に毎日の業務が実践であ
り、迅速で確実な会計事務処理能力が不
可欠です。
どんなに疲労が溜まっていても、1円
の狂いもない会計支援を実施するために、
これからも日々努力してまいります。

部隊長随筆

第104施設直接支援大隊長

3等陸佐 富岡 秀吉



令和2年11月23日(月)、寒さを感じる朝、日本原演習場において、令和2年度後方支援隊84mm無反動砲射撃訓練の編成完結式を行いました。

参加部隊は、中方の各地に所在する中部方面後方支援隊所属の部隊が一室に会して総勢83名となりました。訓練開始前の事前点検等により、射場等の不安全事故を取り除くとともに、訓練実施間において、各部隊、個人が自ら率先して訓練を取り組んだことにより、訓練は所望の成果を得ることができました。

特に射撃間、濃霧に包まれるという悪天候にもかかわらず、全弾命中させる隊員もおり、練度の向上がうかがえました。

また、射手及び装填手とともに、優秀な隊員については、編成解組式において表彰を行い、士気の高揚を図ることができました。

訓練が成功するためには、各人の当事者意識及びあらゆる事態を想定した訓練予行(事前準備)が重要となります。

この部隊の取り組みを見て、来年度には更なる向上が期待できると感じました。

最先任の一言

第102施設器材隊

准陸尉 齋藤 竜馬



「自覚と自制心」

昨年1月16日、厚生労働省が新型コロナウイルス感染症が日本で初めて確認されたと発表してから約1年が経過しました。この間、生活様式は一変し、ウィズコロナにより様々な場面で自粛を余儀なくされている状況が今も続いています。

我々自衛官は、国土防衛力の基礎と武器を扱う組織であることを自覚するとともに、地域の医療崩壊を防止する観点から、強い自制心を保持しなければなりません。

特に、河川に橋梁を構築する任務を有する第102施設器材隊は、練度向上を図るため生地訓練を実施しますので、地域の皆様の信頼とご理解が必要不可欠であります。コロナ禍により、部隊を直接ご覧になって頂く場面やご挨拶できる機会が激減している状況ですが、最先任上級曹長として、自覚と自制心を胸に刻み、隊長を核心として、隊員と共に地域の皆様に強く信頼され、安心頂けるよう努力する所存であります。

災害派遣

駐屯地は、令和2年12月6日(日)、奈良県五條市で発生した鳥インフルエンザに伴う災害派遣のため、第7施設群長(坂本1佐)を指揮官とした災害派遣部隊を編成し、現地へ派遣しました。現地では確実な防疫処置を実施し、任務完了まで気を抜かず、隊員一丸となり24時間態勢で活動して、令和2年12月7日(月)、奈良県からの災害派遣撤収要請を受け、活動を終了しました。撤収にあたり災害派遣に従事した隊員は、検診と防疫を万全にした上で、駐屯地へ帰隊しました。引き続き、即応態勢を維持して地域住民の安心と信頼に寄与してまいります。



災害派遣準備(車両への資材積載)



作業準備を開始する隊員



作業に従事する隊員(運搬)



作業終了後の防疫



編成解組の様子



派遣部隊の出迎え

駐屯地研修



駐屯地司令の防衛講話(京都産業大学生) 11月26日(木)に京都産業大学生に対し、27日(金)は京都大学大学院生に対し、駐屯地研修を実施しました。駐屯地司令による防衛講話の聴講に始まり、第7施設群及び第102施設器材隊が実施する装備品展示を研修した後、食堂において普段隊員が食べている食事を体験しました。



92式浮橋の体験搭乗(京都大学 大学院生) 駐屯地研修を終えた学生からは、「貴重な経験ができた」「施設科職種の内容を知ることができ更に自衛隊に興味を持ちました」等の感想をいただきました。

奈良県林野火災消火訓練



第4施設団本部と第7施設群は、令和2年11月28日(土)、奈良県五條市上野公園で実施された、「令和2年度奈良県林野火災消火訓練」に参加しました。



自衛隊と消防の連携 林野火災発生を想定した訓練において、消防の放水消火訓練から始まり、第7施設群の偵察バイクによる現場救出された要救助者を搬送するといった訓練が繰り返されました。

奈良県自衛隊フェア2020



第7施設群、第3施設大隊、第102施設器材隊及び和歌山駐屯地に所在する第304水際障害中隊は、令和2年11月29日(日)、奈良県主催の「奈良県自衛隊フェア2020」に参加しました。



第7施設群は、事前準備において、第304水際障害中隊の水際地雷敷設装置ユニット等の揚重作業支援を実施しました。



また、第304水際障害中隊は、94式水際地雷敷設装置による体験試乗を実施し、当日用意した試乗枠が、受付開始後すぐに無くなるほどの人気でした。



大久保駐屯地広報紙「やましろ」読者の皆様、新年あけましておめでとうございます。旧年中はご支援、ご協力、本当にありがとうございます。左の写真は、昨年12月6日(日)、奈良県橿原市役所分庁舎において実施された部外イベントでの演奏時の写真になります。

QR codes for the garrison website and Twitter.